

『“スローフード”へ高まる関心』

## —地域おこしがよみがえらせた「食」の姿を考える—

女子短期大学部 小川 眞紀子

「講義内容」：最近、『スローフード』という言葉をかいたことのある方は多いのではないのでしょうか。スローフードに帰りましょう、といった活動は今や世界中に広がっていますが、なぜ今注目されているのでしょうか？……おそらく、現代の食生活をめぐる様々な問題点を背景に、私たちの次世代に受け継がれていく人間の食の営みがどうあるべきかを、今こそ見つめ直し、再考しようとする表れではないのでしょうか。“食育”がキーワードとなり、全国的にいろいろな形で食に関する活動が展開されつつあります。本講座では、スローフードについてのトピックをまじえながら、私たちの健康・食・環境のつながりを皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

「自己紹介」：小川眞紀子（おがわまきこ）本学短期大学部健康栄養学科で元気な学生たちに囲まれて、健康づくりの担い手となる栄養士を養成しております。専門分野は、地域や集団の健康教育・食教育の取り組みを視野に入れた公衆栄養学です。食生活は、私たちの生命活動の源であると同時に、社会的、文化的な営みであり、人々の生活の質（クオリティー・オブ・ライフ；QOL）との関連の深いものです。生活者の視点で広い視野をもちながら、私自身がまず健康的でポジティブな生き方をしたいと願っております。

「専門分野・研究テーマ」：専門分野は、公衆栄養学、栄養教育、食教育。

現在、生活習慣病の予防として、日常の食事を通じて過食を防ぎ肥満を防止する、をテーマに、日本、海外で食事調査を継続して実施し、栄養疫学的な検討を行っています。また、栄養教育・食教育の総合的な力として栄養士実践活動の表現形である食事設計を、部分から全体をイメージし、段階的に捉えていくための総合的な力を養うことをテーマに、調理学実習を通じた食事構成力の形成に関する研究を行っています。

### 「主な学術論文」

辻真紀子，足立己幸：小学生について母子の食事パタンの同異性と栄養素等摂取状況との関係，学校保健研究2002，44：117-130.

辻真紀子，中島滋，笠岡誠一ほか：BMIとヒスチジン摂取量との相関，肥満研究2002，8：302-305.

辻真紀子，笠岡誠一，土屋隆英ほか：体脂肪率と体重当たりのヒスチジン摂取量との相関，肥満研究2004，10：173-176.

小川真紀子，笠岡誠一，土屋隆英ほか：高齢者におけるBMIとヒスチジン摂取量との相関，肥満研究2005，11：178-182.